

◆九頭竜川流域委員会における論点整理（発言要旨集）第33回◆

発言状況等	内容区分			回答	分野	発言要旨	主意	I D
	質問	感想	要望					
第33回流域委員会		○			治水 (河川整備)	この33回の中で一番のショックは、平成16年7月の福井豪雨でした。それまで戦後最大規模という議論をずっとしてきて、嵩上げをどこまでにするかと、どうするこうするという議論をしていたのが、ある日突然、それでは全然話にならないということになった。たかだか1回の、1日もたたない数時間の雨で、我々のやっていたことは一体何だったのだろうと、今さらながら思い知らされた。 そういう中で、21世紀、子どもが子供たちにあとどれだけのものを残していけるか。僕は禍根を残したくないなという思いですが、はっきり言うと自信はありません。自信はないけれども、それ以外に今これ以上のいい知恵が出せるかという、それもまた自信がないなというところです。結論としてこれを残すことについて、私としては、やってきたなという思いだけです。	流域委員会の中で最大の出来事は、平成16年7月の福井豪雨によって、ずっと議論してきた戦後最大規模の考え方が崩れたしまったことである。そういう中で、流域委員会では、これ以上の知恵を出すのは難しいところまで議論できたのではと思う。	3301
第33回流域委員会		○			治水 (河川整備)	議論を通じて、我々の英知でははかり知れないほどの威力が災害にはあるのだということ、2年前の洪水で思い知らされたわけです。後頭部をしたたかぶん殴られたような気持ちでした。ダムがどこまで効用があるのかなんていう疑問を持ちながらも、十分な策とは言えないまでも、我々が英知を出してやったことについては、何か評価していただけたらうれしいなという気持ちだけはあります。	福井豪雨によって、私達の英知でははかり知れないほどの威力が災害にはあるのだということを思い知らされた。流域委員会で私達が英知を出してやってきたことについて少しでも評価していただけたらと思う。	3302
第33回流域委員会		○			治水 (河川整備)	最終的に、こうして新しい穴あきダムの方向で治水のための足羽川ダムができることになったことは、よかったかなと思います。私たち勝山の者は、九頭竜ダムによって、ダムができて以来、大変な怖い経験を体験しておりませんので、よかったかなと思います。	治水のために足羽川ダムを整備することは、洪水から生活を守る上で良かったことと思う。	3303
第33回流域委員会			○		環境・利水 (利水)	2月15日、関電の施設で、取水量とか発電量とかのデータ捏造と言おうか、不正があったという新聞記事がありました。これを読みますと、関電から国土交通省の方へ報告されたとなっていますが、私たちは、市荒川発電所のために、下荒井のダムから勝山市を通る九頭竜川に水がなくて本当に困っているんです。あるいは取水量の改ざんがそこらあたりであったのなら、国、あるいは県でも、水利権があるからどうのこうのなくて、きちんとした正しい措置を電力会社にとっていただけるようにお願いしたいと思います。	近年、某電力会社の施設でデータのねつ造が発覚する事件がありました。九頭竜川の発電取水によって流量が減少している区間についても、過大な取水がないよう国土交通省でしっかりと管理をお願いしたい。	3304
第33回流域委員会			○		環境・利水 (環境)	ダムができますが、これは穴あきダムということです。全国に幾つかこういった計画があるようですけれども、やはり事前に河川のモニタリングデータをしっかり収集、蓄積しておくことです。実際に、これをつくる期間、あるいはできた後も、そういった生物の環境の経緯をしっかりと我々は見ていかないといけない。そのこととあわせて、地域の方も含めて、県民にしっかりと情報を公開していくことが非常に大事ではないかと考えております。	足羽川ダムを整備する際は、建設前後でモニタリングを実施し、そのモニタリング結果は住民にしっかりと公開することが重要である。	3305
第33回流域委員会			○		その他 (流域研究の推進)	流域という概念については以前から語られておりますけれども、私は以前、岐阜大学に流域圏科学研究センターであったシンポジウムに行きました。そのときに、黒部川で「黒部学」といった地域の文化も含めて研究する学問を確立しようということをやっておられたのを見て、九頭竜川にもそういったことをしっかり研究して整理していく一つの機関をつくり、福井大学もありますので、それらが連携して、大野の地下水の問題といったものも全部ひっくるめて研究する一つのまとまったものが必要なんじゃないか。若手の研究者の育成も含めて、そういうことを最後に提言したいと思います。	今後、九頭竜川流域の環境・文化を守っていくために、流域を研究する機関をつくり、その機関が若手研究者の育成の場になればいいと思う。	3306
第33回流域委員会			○		環境・利水 (利水)	この会は、治水、利水、環境というメンバーで構成されていて、でき上がった整備計画書を見ても、利水、治水、環境という言葉がちりばめられているわけですが、何かそれらが常にしっかりとかみ合っているような気がしないんです。議論も、どちらかというと治水に偏っていたような気がします。 今日の報告の中で、慣行水利権が6件くらい許可水利権になったというのを拝見して、こういうところがこの会を契機に進んでいけばいいなと願っています。	流域委員会には、治水・利水・環境のメンバーが集まったが、議論は治水に偏っていたような気がした。利水に関する意見として、この流域委員会を契機に、慣行水利権の許可水利権化が進めばと願っている。	3307
第33回流域委員会			○		治水 (河川整備)	昨今の集中豪雨は、利水施設にも非常に危険な状況になっているんだということを実感しております。 ダムができたから安全だということじゃなくて、古びてきた水利施設も非常に危ないですし、内水の被害も極めて心配だということは市民の皆さんも感じているところでございますので、その点に十分対応していただきますよう重ねてお願いして、終わります。	足羽川ダムができれば安全というわけではなく、内水被害も極めて心配な状況であり、その対応も併せてお願いしたい。	3308
第33回流域委員会		○			その他 (河川整備)	利水側の水道の委員としての立場で参加させていただき、今までやってきたつもりでございます。私はその前に環境等にもいましたが、この会に参加させていただいて、結局、自分は今まで何を勉強してきたのかなという思いを持っております。利水、治水、環境のバランスをとるのはかなり難しい問題じゃないかと感じております。河川の環境だけで物を語れるようなものではないのではないかな。	河川整備計画を考えていく上で、治水・利水・環境のバランスをとるのは非常に難しいことである。	3309
第33回流域委員会		○			環境・利水 (利水)	水道の水につきましても、理化学試験では、いわゆる基準値がありますので、基準値におさまっていればよろしいというふうになってはいるんですけれども、今は「おいしい水」の問題もあって、じゃ、この「おいしい」というのはどういうことだとなりますと、そういう理化学的なものではなくはかりかねる問題も出てきます。 そういうものを総括して、我々が水道企業体として供給していく場合、我々の力でどこまでそういうものを追求していけるのかということで、委員会の中でいろいろと勉強させていただきました。今後、少しでもそういうものを我々の仕事に反映させていければと思っております。	「おいしい水」というのは、理化学試験の基準値におさまっていればいいというのではない。水道水を供給する立場として、そのようなことも考える機会をこの流域委員会で得ることができた。	3310
第33回流域委員会			○		地域との連携 (地域住民対応)	部子川にダムができるわけでございますけれども、下流の人には、特に私自身、下流に近い身近におります一人といたしましても、やはり不安材料はあります。既に不安いっぱい集落もございまして、このたび部子川ダムの計画を策定する上におきまして、こうした不安を取り除いていただくためにも、必ず説明会等を今後もお願いいたしたいと、かように思うわけでございます。	これから足羽川ダムを整備していくが、まだまだ不安材料はたくさんある。流域住民の不安を取り除いてもらうためにも、必ず説明会等をお願いしたい。	3311
第33回流域委員会			○		その他 (他分野との連携)	全国各地にいろんな流域委員会が設置されているわけですが、この流域委員会の特徴を挙げるとすると、国と県が共同で事務局をされたという点ではないかと思っております。 こういう取り組みはまさに流域ということで、河川の上流域もあります。山まで含めて課題があります。ですから、水質の問題、土砂の問題、流木の問題、水の問題と、まさに全部が連続していて、お互いに相互の関係がある問題だと思います。 そのためにも、やはり河川管理者だけでは取り組めない問題が当然ありますので、国と県、それから、県の中でもいわゆる河川管理者だけではなくて、農林の分野、治山の分野も含めて連携をとるということを、ぜひ今後も進めていただきたいと思います。	九頭竜川流域委員会の特徴は、国と県が共同で事務局を行ったことである。流域の問題は、河川管理者だけでは解決できないこともあるので、この流域委員会での取り組みを活かして、河川・治山・農林等が連携して問題解決に努めていって欲しい。	3312
第33回流域委員会			○		環境・利水 (環境)	今後、各地で整備計画の具体的な事業がスタートし、進められることになるとと思いますが、いろんなところでどういう順番でやっていくのかというあたりが非常に大事な問題であろうと思います。特に、今後かなり川をいじり、変化が起きてくると思いますので、そういう情報をできるだけオープンにさせていただいて、環境の変化やその効果について皆さんでモニタリングし、情報共有できるような仕組みをぜひつくっていただきたい。	今後、河川整備計画に従って実際に整備をしていくが、その際、環境の変化や効果についてモニタリングを実施し、その結果についても皆が情報を共有できるようにして欲しい。	3313
第33回流域委員会			○		その他 (環境学習)	次世代の子供たちとか住民たちに、もっと川への関心を持ってもらうことが非常に重要だなと思いました。ここに河川に関する学習というのも出ておりますので、こういうものを通して一層学習活動をやっていかなくちゃならないなと再認識したところでございます。	次世代の人たちに川への関心をもっと持ってもらうことが非常に大切であり、整備計画の中に「河川に関する学習」とあるように、このような活動の中で取り組んでいくことが重要である。	3314

◆九頭竜川流域委員会における論点整理（発言要旨集）第33回◆

発言状況等	内容区分			回答	分野	発言要旨	主意	I D
	質問	感想	要望					
第33回流域委員会		○			その他 (九頭竜川流域委員会)	国土交通省と福井県が一体となって進めてきたけれども、私があのかとき申し上げたのは、できることならもう一歩進んで、福井方式みたいな形の委員会ができないかということでした。ただ、幸いなことに、この委員会が公開の場で行われ、広く論議をされ、また多くの人に伝えられたということは、話を進める上ではよくわかったのかなと思います。	九頭竜川流域委員会は国と県が一体となって進めてきたことから、もう一歩進んで福井方式みたいな形の委員会を確立したかった。この委員会が公開の場で行われ、広く議論をされ、多くの人たちに伝えることができたことは良かった点である。	3315
第33回流域委員会			○		治水 (危機管理)	穴あきダムがつくられていくには、費用的な問題とか、安全上の問題とか、いろいろな形でたくさんあると思いますので、我々はそれをどこまで見つめてくことができるのか、責任の一端を感じるなという感じは率直にいたします。 ダムができれば福井県は安全かということに対しては、豪雨のときのように、あれだけの1時間に80mm以上のスポット的なものが何時間も降れば、恐らくどこも大変ですよということを聞きましたので、そうしたことに対する危機管理も、今後いろいろな角度から考えていく必要があるのではないかと思います。	足羽川ダムについては今後も整備の行く末を見守りたい。ダムができれば安全ということではないので、今後、危機管理についても考えていくことが重要である。	3316
第33回流域委員会			○		環境・利水 (環境)	現場の漁業者のところへ行きますと、依然として課題が豊富である。川をいじくればいじくるほど環境が悪くなっているということを常に聞きます。 また、最近の状況を見ていると、海から上がってくる、あるいは降下するほとんどの魚が横断工作物で途切れるために、人工的に仔魚をつくって放流せざるを得ない状況になっています。 魚道が今盛んに脚光を浴びてきております。非常に安価な魚道がつくられるようになってきていますので、また河川管理者の方々にいろいろな御指導、御協力をお願いしますけれども、その点をよろしく願います。	漁業関係者には河川改修をする度に漁場が悪化するという思いがある。また、魚が遡上・降下できないような横断工作物や、機能しない魚道が見られるので河川管理者に改善の協力をお願いしたい。	3317
第33回流域委員会			○		環境・利水 (環境)	長野の方でも穴あきダムをということになったみたいです。今回すばらしい策定があったわけですが、福井県は今から着手するわけですから、まだまだこれから也十分、島根の益田川ダムの現状とか、いろんなことを大切に、福井の穴あきダムに生かしてほしいと常々思っています。 それから、それを取り巻く環境のこと、ダムのことなど、いろいろと情報を公開していただきたいと思います。	足羽川ダムについては、同じ洪水調節専用ダムである島根県の益田川ダムで蓄積されたデータを活かして整備していった欲しい。また、ダムのこと、環境のこと等についても情報公開をお願いしたい。	3318
第33回流域委員会			○		環境・利水 (環境)	今我々がやったことがいいのか悪いのかというと、基本的に悪いことをやったつもりは全くないと思うんです。ただ、一つ大切なことは、自分たちが計画したことをきちっと評価することです。そのために、きちっとデータをとることが非常に大切だろうと思います。 我々が提案したものが、どういうふうにうまく具合に展開されたのか、あるいは間違っていたのかということ、きちっと我々が評価して次の世代に残すことです。その中で、いい点は引き続いてやってほしいし、これは気をつけていかなければいけないということには気をつける。これがぜひ評価の中で今後生かされることを望みたいと思います。	現時点で環境に良いと思ってやったことが、将来的に環境問題となってしまう場合がある。この点で大切なことは、しっかりとデータを収集し、計画したことをきちっと評価することである。そして、その評価結果を次世代に残していくことが重要である。	3319
第33回流域委員会			○		その他 (水没地域の支援)	現在の段階においては、洪水の災害から守るにはダム以外に方法がないのかなという考えを持っています。 現在の山村を取り巻く状況は、本当にそこに若者が定着できるような環境でないということを報告させていただき、水没地域の生活再建が一日も早くできるように、行政の方々に、皆さん方の御協力、御指導を特にお願ひするわけでございます。 ダムが完成するまでには、町を初め県、国の多大な御協力を得なくては、我々では到底できないこととでございます。また、生活再建ができないのでございますので、その点をよく御尽力されますよう御協力を心からお願いいたします。	現時点で洪水の災害から守る有効な手段はダムであると考えている。水没地域の山村を取り巻く環境は厳しい状況である。そのため、足羽川ダムを整備する際は、水没地域者の生活再建を十分に考えて欲しい。	3320
第33回流域委員会			○		環境・利水 (環境)	一つの魚がいることが大事なのではなくて、日本の川の中には、いろんな魚とか貝とかが、ほかの動物の助けをかりながら棲んでいるのです。それは、どれを取ってしまってもだめだということです。それが普通の川の普通の理由なんです。21世紀の川は、何か特殊なすばらしいものがある川ではなくて、多分、普通のものがちゃんと普通にいる川を目指していったところが生き残れるのではないかと思います。	川には貴重な生物がいるかどうかではなく、普通の生物が普通にいるということが重要である。21世紀は特別な生物を対象にするのではなく、普通の生物が普通に生息する川を目指すべき。そのためにも、川のデータをしっかりとって、分析・評価をしていくべき。	3321
第33回流域委員会			○		環境・利水 (環境)	環境は、洪水と違いまして、多少悪くなくても生き物は残っているんです。それで、50年かかってやっと大変だという状況にたどり着きます。すごく時間がかかるということ、これからも考えていただきたいと思っております。ダムができて物がどうなったということは、どのぐらいの時間で物を言うかによって評価が違ってきますので、私たちが何をしているんだということをいつもフィードバックしながらやっていただいたらいいのではないかと、そんなふうに思います。	環境は洪水と違って問題が公になるのに時間がかかる。ダムを整備して環境について評価する場合もその点を考慮していくべき。	3322
第33回流域委員会			○		治水 (河川整備)	今日、最終的なこの会に臨ませてもらいますのは、大変感慨深いものがございます。今日帰りまして、亡くなられた皆さん方に、やっとダムも目の目を見ることになりましたよと御報告申し上げたいという気持ちであります。 あれから考えると10年はたっております。非常に長い時間をかけてやっと目の目を見た足羽川ダムでございますので、どうぞできるだけ早いところで、全部満点とは行きませんが、皆さんの御意見がまとまり、本当に完成と言えるようなものを早くつくってあげてほしいというのが私の気持ちでございます。	今までを振り返ると大変感慨深いものがある。足羽川ダムについては、非常に長い時間をかけて議論してきたので、皆さんの意見を反映させてできるだけ早く完成していただきたい。	3323
第33回流域委員会		○			その他 (河川愛護)	ここへは電車に乗ってきますけれども、いつも九頭竜川を眺めながらこの会に参加させていただくことによりまして、川をしっかりと見る目というんですか、いとしい気持ちがだいぶわきました。このことを大変感謝しております。	電車に乗って九頭竜川を眺めながら委員会に参加してきた。川をしっかりと見ることによって愛しい気持ちがわいてきた。そのことを大変感謝している。	3324
第33回流域委員会			○		地域との連携 (地域住民対応)	この委員会というか、こういう仕組みづくりに感謝したいと思います。今までは、九頭竜川の最上流から、住民にとっては本当に生活に身近なところにあるにもかかわらず、いろんな施策に全く声が出せませんでしたが、水利権の問題も含めて、声を出す場をつくっていただいて、それをいろんな形で今回の計画の中にも反映していただきました。この形は、これからもずっと、きちっと継承していったきたいと思います。	九頭竜川流域委員会のように住民の声が計画に反映される仕組みについては、今後もきちっと継承していったきたい。	3325
第33回流域委員会		○			維持管理 (施設の保持)	データの蓄積は非常に大事だし、そのデータを今回もいろいろと検討して、穴あきダム構想につながったとは思いますが。 ただ、市民として不安なのは、益田川ダムが置かれた地理的な場所と、池田に今つくられようとしているダムの立地する場所の違いです。これは、今後の維持管理に非常に大きな問題があるのではないかと、思っております。	足羽川ダムと益田川ダムとでは、同じ洪水調節専用ダムでも立地条件が違うため、土砂の堆積など今後の維持管理に不安を感じる。	3326
第33回流域委員会			○		その他 (各省庁の連携)	今のこの九頭竜川流域委員会というせつかくの仕組みを、今後、住民とオープンに情報交換をしながら、将来の世界にとって、地球にとって本当にいいのか悪いのかということまで検討するような各省庁横断型の仕組みづくりにつなげていく、そういう第一歩にしていってほしいと思います。そして、それを東京とかいうところじゃなくて、この一つの河川の上流から下流までを持っている福井県という一つの県で、ローカルから発信していったいただきたい。	今後も行政と市民が連携・情報交換していく仕組みを継続していき、ゆくゆくは各省庁横断型の仕組みづくりにつなげていけるよう、この福井県から発信していけたらと思う。	3327

◆九頭竜川流域委員会における論点整理（発言要旨集）第33回◆

発言状況等	内容区分			回答	分野	発言要旨	主意	I D
	質問	感想	要望					
第33回流域委員会			○		その他 (足羽川ダム広報)	この流域委員会中に福井豪雨に遭いましてつくづく痛感したことは、絶対的なものというのはこの世の中にはないんだなということです。 足羽川ダムが穴あきダムであるということを、案外一般の人はまだ知らないような気がいたします。私が同窓会なんかで会って話をいたしましても、普通の、今までと同じような水を湛水するダムであるという錯覚に陥っている人が結構おります。行政の方も、そういった点をもっとよく宣伝していただきたいと思いますし、私自身もまた、そういった点を宣伝していきたいと思っております。	福井豪雨を経験して、この世の中に絶対的なものはないということが分かった。足羽川ダムが洪水調節専用ダムであることを一般の人たちは案外知らないので、その点の広報もお願いしたい。	3328
第33回流域委員会		○			その他 (九頭竜川流域委員会)	私は、県と国が共同していろんな連携をし、さらには、流域委員会の審議で意見を述べる上でのいろんな資料、情報、データを非常に積極的に出していただき、流域委員会と河川管理者の方々との共同の産物として、こういったものができ上がったのではないかと感じるところでございます。 また、私の意識としては、九頭竜川水系流域委員会であり、足羽川ダム委員会ではないという形で、流域全体として幅広に御議論をしていくように心がけたつもりでございます。内容的に、先ほど来お話がございましたけれども、治水にウエートが置かれるような変更もあったのかもわかりませんが、意識してそういう進め方をさせていただいたところでございます。	九頭竜川流域委員会では、国と県、流域委員会と河川管理者との共同によって、九頭竜川水系を幅広く議論することができたと思う。	3329
第33回流域委員会		○			その他 (九頭竜川流域委員会)	足羽川ダムという関心事がこのような形にまとまり、今後は、我々としても、環境アセス等を含めて、さらに影響評価、技術的なものも含めて、鋭意なされることを見守っていきたいと思います。と同時に、大いにこういった成果の内容を進めていただきたいようお願い申し上げる次第でございます。 九頭竜川流域委員会を代表し、これからこの内容が鋭意進みますことをお願い申し上げ、最後のお礼といたしますとともに、今後の推移に期待したいと考えております。	九頭竜川流域委員会として、足羽川ダムをはじめ、九頭竜川水系河川整備計画の内容が鋭意進むことを願い、今後の推移を見守っていきたい。	3330